おくのほそ道（平泉）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。まづ高館に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつてこの城に籠もり、功名一時の叢となる。「国破れて山河あり、城春にして草青みたり。」と、笠うち敷きて、時の移るまで涙を落とし侍りぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

卯の花に兼房見ゆる白毛かな　　曽良

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。七宝散りうせて、珠の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、すでに頽廃空虚の叢となるべきを、四面新たに囲みて、甍を覆ひて風雨をしのぎ、しばらく千歳の記念とはなれり。

五月雨の降り残してや光堂

問一　二重傍線部ア～ウの漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　波線部A、Bの意味として適切なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ａ　ア　夢のようなすばらしい世界で　　イ　あまりに退屈で眠くなってしまい
　　ウ　一夜の夢のようにはかないもので　　エ　一眠りしているうちにできるほど簡素で

Ｂ　ア　時間をかけて　　イ　厳選して集めて　　ウ　忠義を尽くして　　エ　すぐに集まって

問三　傍線部①「功名一時の叢となる」、④「かねて耳驚かしたる」について、語を補って分かりやすく現代語訳しなさい。

問四　傍線部②「国破れて山河…」は有名な漢詩を踏まえている。その(1)漢詩のタイトルと、(2)作者名を答えなさい。

問五　傍線部③の句に込められた作者の心情として適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　荒れ果てた戦場の跡に、藤原三代の栄華や義経たちの活躍の様子を再現して思い起こそうとする気持ち。
イ　悠久な自然に守られながらも滅び去ってしまった藤原三代の歴史に、人間の営為に対して愚かさを感じる気持ち。
ウ　権力を誇示して栄えながらも滅び去った藤原三代のことを思うと、自然の営為を恨みたく思う気持ち。
エ　藤原氏三代の栄華や義経主従がもろくも滅び去ったことから、悠久な自然に対し、人間の営みをむなしく感じる気持ち。

問六　傍線部⑤「しばらく」と言っているのはなぜか。簡潔に説明しなさい。

問七　傍線部⑥の句について、次の各問いに答えなさい。

(1)　「五月雨」とは、現在の暦では何月のどのような雨のことか。

(2)　この句には作者のどのような気持ちが詠まれているか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　仏の利益により自然の脅威から守られてきた光堂に感動する気持ち。
イ　自然の力に抗し、人為の力で光堂が残されてきたことに感動する気持ち。
ウ　五月雨に例えられた自然の気まぐれにより光堂が残されたことに感動する気持ち。
エ　自然の脅威にさらされつつも繰り返し建て直されて常に光り輝く光堂に感動する気持ち。

問 七	問 六	問 四	問 三		問 二	問 一
(1)		(1)	④	①	A	ア
月の		(2)			B	イ
(2)		問 五				ウ

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

おくのほそ道（平泉）　＊

〔出題の意図と留意点〕　文章の背景にある歴史的事実や、引用している漢詩の理解と、季語や基本語の読みを確認する。そのうえで、作者がそれぞれの句に込めた心情を問う。

☆解答例と配点

問一　**ア**　えぞ　**イ**　そうせつ　**ウ**　いらか　〈2点×3〉

問二　**A**　**ウ**　**B**　**イ**　〈3点×2〉

問三　①　手柄を立てて戦った功名も一時のことで、今はその跡は叢となっている。

④　前々から話に聞いてその立派さに驚いていた　〈5点×2〉

問四　(1)　春望　(2)　杜甫　〈3点×2〉

問五　**エ**　〈6点〉

問六　人為の力で自然から光堂を守っても、いずれは無に帰するから。　〈6点〉

問七　(1)　六月の梅雨　(2)　**イ**　〈5点×2〉

計50点